



電子版 “ロダン・タイムズ”



酒場 講演

8号

祝 新潟商工会議所 平成24年 会員大会

記念講演は、吉田類さん

映画 酔拳(すいけん)のような講演でした

(その1) 高知で迂闊に言えない言葉「しょうしょう」とは？



吉田類さんといえば、BS-TBS月曜夜9時からの『酒場放浪記』で有名。

いつもテレビで見ている、酒場を訪れる格好で登場されました。

高知出身の吉田さんが、少し戸惑い気味に話を切り出されました。

普段お酒の席での講演はありますが、お酒がなく大勢(約350名)の前で話すのは、初めてとのこと。

(記念講演の後に酒宴となっています。すなわち全員しらふ状態です。)

さすがに、語り口は軽快で会場を少し沸かせながらお話をすすめられますが、演台にある水を頻繁に飲まれ、「これがお酒だったら」との本気ともジョークともとれる発言を繰り返されます。

会場内にいた酒場放浪記の大ファンからは、

「収録後の1、2軒はしご酒は、本当ですか」の問いに、

実は1日2回分の収録を行ないます。(私はここでえっ！)

収録後はスタッフや、居合わせたお客さんと5、6軒行きます。(えっ～！)

収録中のカメラやライトにお客さんの表情が変わらないよう、

取材当日、店内に1人で先に入って、仲よくなるほど飲むそうです。(超えっ～！)

お酒は、量に換算して2升は飲みながらも、翌日に残らないそうです。

高知では、「しょうしょう」飲めますとは、2升飲めますとのこと。

帰ってネット検索、この話は本当です。吉田類さんは、高知では普通人???

（その2）主催者の粋な計らい

講演の途中、主催者が吉田さんに熱燗1合ビンを渡しました。

おそらく、前代未門の行動でしょう。

でも、会場の聴講者もお酒を届けたことには拍手喝采。

吉田さんは、不思議なオーラをもった方です。

これに喜んだ、吉田さん。

お酒を飲みながら、語り口が変わってきました。

この時、映画の「酔拳」(すいけん)を思い出しました。

映画では、酔うほどに強くなる人。

吉田さんは、飲むほどにパワーが出る人。

終盤の講演は、酒場の言葉の由来へ。

東京での火事、戦争、地震などの復興に来た職人さんたちのたまり場となった
城東(下町)では、大衆酒場の看板が見られるようになった……。

(ネット検索すると、このことが書いてありました。話題に苦勞されたでしょう。)

講演後、吉田さんは東京へ帰られると聞いて、がっかりした人は多かった。

ただ、吉田さんは新潟にはよく来られるとのこと。又の機会を楽しみに。

講演後の酒宴は、各テーブルとも盛り上がったことは、いうまでもありません。

（その3）袖振合うも、多少の縁(宴)

酒宴での、居酒屋談議はまずは情報交換。テーブルの隣の人から、

東京六本木の居酒屋「酔香郎」よかろう というお店を教えてくださいました。

また、仙仁(せに)温泉は、超人気らしく一年前からの予約だそうです。

一年後の予約は、お誕生日的感覚で申し込まないといけません。

10年以内には、行きたいところです。

仕事に追われながらも、連載をしていて良かったと感じる時です。

明示、黙示にかかわらず、発行者（当事務所）がこれを保証するものではありません。